

指定棚田地域振興活動計画

作成主体の名称：中田棚田協議会

1 指定棚田地域振興活動を通じて保全を図る棚田等に関する事項(棚田等の名称及び範囲)

中田棚田

範囲については、別添 1 のとおり。

2 指定棚田地域振興活動の目標

(1) 棚田等の保全

- ・耕作放棄の防止・削減
 - 令和 6 年まで中田棚田における耕作放棄地の現状を維持する。
- ・生産性・付加価値の向上
 - 令和 6 年までに中田棚田で自走草刈り機の導入やドローンを 1 台委託導入して、ドローン防除の共同作業面積を 0ha から 3ha にする。
- ・棚田周辺の環境保全
 - 令和 6 年までに地元企業と共同で中田棚田へのアクセス路の維持管理作業を年間 2 回以上実施する。
- ・担い手確保
 - 令和 6 年までに協議会参加者の若返りを目指し世代交代を 2 名行う。

(2) 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・農産物の供給の促進
 - 令和 6 年までに棚田米（酒米）の作付面積を 70a から 100a に増加させる。
- ・自然環境の保全・活用
 - 中田棚田で地元小学 5 年生を対象に、農業体験イベント（田植え、草取り、稲刈りまた農機具実演）や棚田生物の捕獲・観察、稲わらの案山子作りなどを年間 3 回以上開催し、現状の 100 人程度の参加を目指す。
- ・良好な景観の形成
 - 中田棚田の景観保全のため、アジサイや彼岸花、ツツジの植栽、管理に地域一丸となって取り組む。
- ・伝統文化の継承
 - 炭山自然体験ツアーと菜の花野外コンサート、また毎年正月に中田棚田で「初日の出 in すみやま」を開催し、多くの参加者を誘客する。
 - 中田棚田地域で 12 年に 1 度の奉納相撲の伝承文化を継承して行く。

(3) 棚田を核とした棚田地域の振興

- ・棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 中田棚田で都市住民との農村交流体験イベントを年間 2 回以上開催し、現状の 100 人程度の参加者を確保する。
- ・棚田を観光資源とした地域振興
 - 中田棚田周辺のトイレ/駐車場/看板/展望台/休憩所/交流施設の維持管理に努

め、また中田公民館をサブ交流会場として整備する。

令和6年までに、大学と共同で小型水力発電システムを活用した集落活性化プログラムを推進し、新しい地域資源を創出する。

・ 棚田米等を活用した六次産業化の推進

令和6年までに棚田米（酒米）を原料とした純米吟醸酒「すみやま」（加工品）の販売量(720ml)を2500本から3000本へ増加させる。

3 計画期間

認定の月～令和7年3月

4 各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容及び実施主体に関する事項

(1) 指定棚田地域振興活動の内容

以下の指定棚田地域振興活動について、別添2の工程表に基づき実施することとする。

棚田等の保全

・ 耕作放棄の防止・削減

地区のボランティア団体「中田元気農業」や地元建設会社と連携しながら、中田棚田の耕作放棄地の耕起や草刈りを行い、現状を維持する。

・ 生産性・付加価値の向上

中田棚田において、自走草刈り機導入による作業効率の向上やJAへり防除では適期防除が出来ない点から、委託によるドローン防除を300aで実施する。

・ 棚田周辺の環境保全

地元企業（伊万里ケーブルテレビジョン(株)、伊万里ガス(株)、吉永建設(株)）と共同で中田棚田への進入路の草刈り、支障木伐採やガードレール清掃等を年間2回以上実施する。

・ 担い手確保

中田棚田協議会の運営機能を維持促進するために、担い手の若返りを目指し世代交代を2名行う。

棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

・ 農産物の供給の促進

棚田米（酒米）の生産量を増やし、それを原料とした純米吟醸酒「すみやま」（加工品）の販路を拡大する。

平成29、30年フランス蔵マスター金賞受賞

・ 自然環境の保全・活用

中田棚田で地元小学5年生を対象に、農業体験イベント（田植え、草取り、稲刈り、木造農機具の実演）を通して稲作文化の実体験を提供している。

またその過程（遊び）で、水生生物の捕獲、観察また稲わらでの案山子作りや餅つきなど遊びの要素を盛り込んだツアープログラムとしており、年間3回以上開催し、現状の100人程度の参加を目指す。

・ 良好な景観の形成

中田棚田においてアクセス路や畦畔に、アジサイ、彼岸花、ツツジの植栽、管理また農閑期には菜の花、コスモス畑を作り景観保全に地区を挙げての取

組み、棚田に気持ち良く訪問できる環境を整える。

- ・ 伝統文化の継承
 - 炭山自然体験ツアーと菜の花野外コンサート、また毎年正月に二里公民館から中田棚田の炭山神社まで 4km を歩く「初日の出 in すみやま」を開催しており、参拝後の蕎麦、ぜんざい会も含め、毎回多くの参加者の誘客を目指す。
 - 中田棚田で 12 年に 1 度の申年に奉納相撲が行われ、町内外より青年・小中学生対抗による”申年生まれの相撲”という伝承文化を継承して行く。

③ 棚田を核とした棚田地域の振興

- ・ 棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 中田棚田で市内外の住民(棚田オーナー)との農村交流体験イベントで田植え、稲刈りや食育、そば打ち体験等を毎年実施し、現状の 100 人程度の参加者を確保する。
- ・ 棚田を観光資源とした地域振興
 - 中田棚田への訪問客用にこれまで整備してきたトイレ/駐車場/看板/展望台/休憩所/交流施設等の維持管理、また中田公民館をイベントや地元住民の交流・避難サブ施設として整備を行う。ホームページやフェイスブック等の情報発信ツールを駆使しての広報活動等でリピート客の増加と新規顧客の発掘に努める。
 - 九州大学と共同で用水路に小型水力発電装置を設置、発電を行い、イノシシ対策用のワイヤーメッシュのイルミネーション化で防除機能を向上し、クリーンエネルギーによるスマート農業で新しい地域資源を創出する。
- ・ 棚田米等を活用した六次産業化の推進
 - 平成 29、30 年フランスの日本酒コンクール「蔵マスター」で純米吟醸「すみやま」が 2 年連続金賞受賞となり、今後国内、海外でのネット販売増も視野に入れ、中田棚田米（酒米）を原料とした純米酒（加工品）の製造・販売に取り組む。

(2) 指定棚田地域振興活動の実施主体

上記（1）に掲げる指定棚田地域振興活動の実施主体は、主に下記 5 の指定棚田地域振興協議会の参加者である。

5 指定棚田地域振興協議会に参加する者の名称又は氏名

中田棚田協議会は、農業者、農業者団体、地域住民、企業、伊万里市、佐賀県で構成。参加者の名称又は氏名については、別紙のとおり。